

ねごろ医用実学研究会

ごあいさつ



(国宝) 根来寺大塔

ねごろ医用実学研究会は、『臨床工学は学問たり得るか』という命題に対して、臨床工学を医療における実学と捉えて、工学・医学・生物学などの基礎研究から臨床および医療制度までの全てについて幅広く知識を得、議論していくことを趣旨としています。またこの研究会は、私が所属する医用工学科が「サイエンスをバックボーンにもつ新しいタイプの臨床工学技士の育成」を目指していることを支援する教育の一環でもあります。研究会の具体的な活動は、工学・医学・臨床に関連する研究発表の場を提供する、それらの幅広い研究分野の研究者、臨床家、企業および医療制度の実務家を招聘しての講演会などを開催することです。この研究会は、近畿大学の建学の精神である『実学教育』に根ざしたものです。

ところで、根来（ねごろ）という語源は、司馬遼太郎著『街道を行く 阿波紀行、紀ノ川流域』によると「^ね峰をほどよくさがった^{みなみび}南陽をうける斜面」という意味だそうです。根来寺は1130年に、その根来の地に^{かくばん}覚鑿上人が高野山を出でて開いた新義真言宗総本山の寺院です。16世紀後半、根来寺は強大すぎるが故に豊臣秀吉に焼き討ちされ滅ぼされてしまいましたが、最盛期には寺領が72万石を数え根来衆と呼ばれる屈強な僧兵を抱えた我が国最強とって過言ではないほどの軍事集団でした。当時としては信じがたいほどの情報網を有しており、我が国に初めて伝来した鉄砲をいち早く種子島から導入し、その一挺をもとに鉄砲製造技術を確立して、軍事大国をつくりあげた見事な科学技術力を擁していたのです。年月は過ぎ去り、今日では、根来寺を詣でると静けさの中にありますが、凜とした空気が感じられ身が研ぎ澄まされる思いがします。我が近畿大生理工学部は根来寺の約2km東側に位置した小高い丘陵地、まさに”ねごろの地“にあります。

かつて根来が我が国を誇る科学技術の発信の地であったように、『臨床工学とは何たるか』をこの研究会から発信いく所存です。

平成25年12月

代表幹事 古菌 勉
(医用工学科学科長・教授)